

「連合 2024 平和ヒロシマ集会」主催者代表挨拶

冒頭あいさつ・御礼

全国各地より、「連合 2024（にいまるにいよん）平和ヒロシマ集会」にお集まりいただき、誠にありがとうございます。主催者を代表して、ご挨拶を申し上げます。

まずは、公務ご多用のところ、ご来賓として広島県・副知事の玉井優子（たまい ゆうこ）様、広島市・市民局長の村上慎一郎（むらかみ しんいちろう）様に、ご臨席を賜っております。

また、国際労働組合総連合（ITUC）を代表して、書記長のリュック・トリアングル様にもご臨席をいただいております。

そして、原水禁とKAKKINの両団体におかれましては、日頃からの連携に加え、本集会にも共催団体としてご参加、ご協力をいただいております。さらには、広島県、広島市、平和首長（へいわしゅちょう）会議をはじめ、多くの皆様に後援団体としてご参加いただいておりますこと、主催者を代表して心より感謝を申し上げます。

被爆について

79年前の1945年8月6日、午前8時15分、この広島に原子爆弾が投下され、熱線と爆風と放射線によって、14万人余りの尊い命が奪われました。そして、3日後の8月9日、午前11時2分に投下された長崎では、約7万4千人の尊い命が犠牲になりました。

原爆で亡くなられたすべての方に、心から哀悼の意を捧げるとともに、被爆の後遺症に今なお苦しんでおられる方々に心よりお見舞いを申し上げます。

広島での平和行動

今年は原爆投下から79年を迎えます。身をもって体験し、その悲劇を伝えてくださる方々の高齢化が進んでいますが、連合は、若い世代を中心に、戦争の歴史や知識、「語り部」の皆様の思いを継承するための取り組みを行ってきました。

本集会においても、後ほど、広島県原爆被害者団体協議会理事長の箕牧智之（みまき としゆき）様より、被爆体験のお話をいただきます。

また、今回も、連合広島や中国ブロックの青年・女性委員会の皆さんがピースガイドを務める、ピース・ウォークや被爆路面電車 乗車学習会を実施してきました。ご参加いただいた皆様には、被曝の実相を肌で感じるとともに、この間準備を重ねてきた若者たちの、真摯な取り組みと熱意を感じていただけたものと確信しております。

核兵器をめぐる情勢・日本の役割

現在、世界には12,000発以上の核弾頭が存在しています。

2022年2月から続くロシアのウクライナ侵略において、プーチン大統領は核兵器使用を示唆する発言を続け、さらには隣国ベラルーシに戦術核を移転するなど、近年、核戦争の危機がかつてないほどに迫っていると言えます。

また、広島、長崎両市長も参加された、昨年12月開催の核兵器禁止条約第2回締約国会議では、核兵器のない世界の実現をめざす政治宣言が採択されましたが、日本政府は第1回会議に続いて参加を見送りました。日本政府には、唯一の戦争被爆国と

して、核兵器のない世界の実現に向け、核軍縮と核不拡散の強化に向けた外交努力を粘り強く続けるよう求めていきたいと思ひます。

結ひ

各国の首脳や著名人が原爆資料館を訪問した際に所感を記帳する冊子は「芳名録」と呼ばれているそうです。かつて、旧ソビエトの最後の指導者で、東西冷戦を終結に導いたゴルバチョフ氏は資料館訪問後、芳名録に「歳月が広島を和らげることはできませんでした。私たちは原子爆弾の犠牲者のことを決して忘れてはなりません」と記しました。現在の世界情勢を鑑みれば、非常に重い言葉であり、各国の指導者だけでなく私たちが胸に刻むべき言葉だと思ひます。

このあと、地元広島「中国新聞社 特別論説委員」の宮崎智三（みやざき ともみつ）様に、ご講演をいただくことになっていますが、核兵器廃絶は、決して核兵器保有国や被爆地だけの課題ではなく、今を生きる、すべての人々が乗り越えるべき課題です。

私たち連合は、戦争の実相を知り、平和を学ぶ機会、次世代に語り継ぐ取り組みとして、6月の沖縄を皮切りに、8月の広島・長崎、9月の北海道・根室において、平和4行動を実施しています。

今回の平和行動を通じて、被爆地広島での核兵器廃絶に対する強い想いを、職場や地域に持ち帰り、運動として展開していただくことを期待いたします。

誰もが心の底から願ひ続ける「核兵器廃絶」と「恒久平和の実現」に向け、ともに頑張りましょう。ありがとうございました。

以 上